

「連続講座」を開催しました

島根県埋蔵文化財調査センターでは、文化財をより身近に感じてもらうことを目的とし、出土品などを活用して文化財講座「いにしえ倶楽部」を開催しています。

●連続講座「縄文時代の集落と食糧獲得」

近年の発掘調査の成果から、これまでのイメージと異なる山陰の縄文時代の生活を分かりやすく解説しました。(9月6日埋文センターにて)



◀ 近年の発掘調査の出土品を間近に見ながら、遺物のくわい解説も行いました。

【平成27年度の連続講座】

第1回/7月「出雲・淡路・信濃大量青銅器埋納の謎に迫る」
第2回/9月「縄文時代の集落と食糧獲得」
第3回/2月「遺跡からみた島根の戦国時代」

埋文センター講演会を開催します

●講演会「弥生のタイムカプセル 西川津遺跡」

松江市西川津町に所在する山陰地方を代表する弥生時代の集落遺跡である西川津遺跡の発掘調査の成果の紹介を中心に、米作りが始まったところの出雲地方の実像に迫ります。



- 日 時
平成27年12月5日
13時～17時
- 会 場
松江市白湯本町STICKビル
松江市市民活動センター
交流ホール
- 対 象
一般 定員150名
- 参加無料
事前申し込みが必要

刊行案内

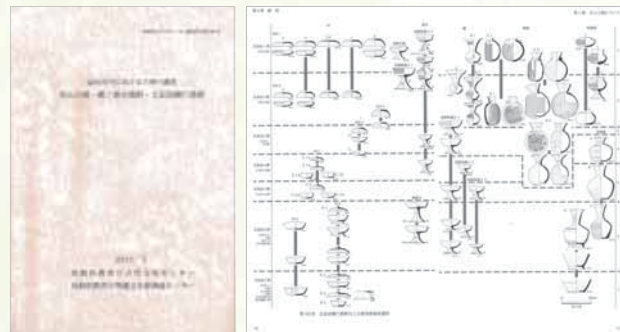
●発掘成果をわかりやすく紹介

『シリーズしまねの遺跡発掘調査パンフレット』
当センターでは、最新の調査成果を分かりやすくまとめた「シリーズしまねの遺跡発掘調査パンフレット」を刊行しています。このたび最新刊「庵寺古墳群」と「市井深田遺跡」を刊行しました。ご希望の方には無料で配布しています(送料別途必要)。



●最新刊です！

古代文化センター調査研究報告を刊行しました。平成22年度から26年度にかけて益田市内で行った古墳の調査と研究成果をまとめたものです。県内の図書館や文化財関係施設等に配布しました。



島根県古代文化センター調査研究報告書 49
益田市内における古墳の調査
金山古墳・鶴ノ鼻古墳群・北長迫横穴墓群



まいぶん 出土遺物カード10 西川津遺跡の獣骨(松江市西川津町)

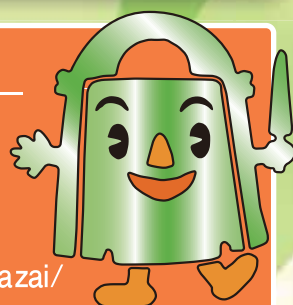
本館展示室では、西川津遺跡から出土した弥生時代の獣骨・魚骨を展示しています。シカ・イノシシをはじめとした動物や魚は、当時の重要な食糧です。動物の骨は、全身骨格がそろうことが少ないことから、解体して必要な部分だけを集落に持ち帰ったと考えられています。骨には焼けた痕跡がないので、バーベキューのような食べ方はあまりしなかったと思われます。このほか、フグの骨がたくさん出土しています。昔の人も、毒の処理を十分知っていたのでしょう。

島根県の埋蔵文化財情報誌

ドキ土器
まいぶん

No.58 発行：平成27年11月

編集・発行
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒690-0131 松江市打出町33
TEL.0852-36-8608 FAX.0852-36-8025
E-mail: maibun@pref.shimane.lg.jp
http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/



わかりやすい！島根県の埋蔵文化財情報が満載！

島根県の埋蔵文化財情報誌

ドキ土器

まいぶん

No.58



まいぶんくん



大国地頭所遺跡調査区全景

弥生時代の終わりから 1,000 年以上にわたって継続した集落跡からは、掘立柱建物跡などの遺構が多数確認されました。

また、潮川対岸の丘陵上では、石見東部屈指の大規模古墳群である庵寺古墳群が確認されており、両者の関係が注目されます。

仁万平野の南東部で土器が大量に出土

① 大国地頭所遺跡 (大田市仁摩町)

静間仁摩道路の建設に伴い、6月から発掘調査を行っています。遺跡は潮川下流域の、沖積平野縁辺にあり、今年度は約2,800㎡を発掘調査しています。弥生時代から平安時代にかけての包含層が厚く堆積しており、これまでにプラスチックコンテナで約200箱もの大量の遺物が出土しています。

現在の潮川は、時代により流路を変えていたようです。古代の潮川は、現在より北側の山裾を流れており、大国地頭所遺跡はその河岸に立地していました。

MAP



島根県の
最新発掘
情報 平成27年度(上期)
発掘調査
ガイド



●発掘調査中の遺跡には、深い穴や急傾斜地など危険な場所があります。事故などのおそれがありますので、くれぐれも無断で立ち入ることがないようお願いします。
■掲載した遺跡についての問い合わせ：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター TEL 0852-36-8608

弥生～古墳時代の自然流路を発掘！

② 麓Ⅱ遺跡 (出雲市東神西町)

昨年度に引き続き、一般国道9号（出雲湖陵道路）建設に伴い、6月から8月まで発掘調査を行いました。今回の調査区では、弥生時代から古墳時代にかけての自然流路が複数見つかりました。

自然流路内には護岸やしがらみなどに使ったと思われる杭などがあり、水の流れを制御しようとした工夫の跡がうかがえます。流路内からはほかにも多数の土器や木製品も出土し、特に木製品の中には鍬などの農耕具が含まれており、付近に当時の水田が広がっていた可能性が考えられます。

MAP



木製品出土状況



調査区近景

石見東部最大級の横穴墓群 ③ 大西大師山遺跡 (大田市久手町)

一般国道9号（朝山大田道路）建設に伴い6月から発掘調査を行っています。標高約70mの丘陵一帯に位置する遺跡で、丘陵頂部付近に露出した凝灰岩に古墳時代の横穴墓が多数造られています。今年度の調査区では、これまでに古墳時代終り頃の横穴墓を6基確認しており、これまでに確認されている横穴墓と合わせると石見地方東部では最大級となる20基以上になりました。

旧波根湖の周辺には、他にも同じ頃の横穴墓が多数確認されており、古墳時代の終わり頃に入り海のほとりで多くの人々が暮らしていた様子が想像されます。

MAP



調査区近景



横穴墓の入口と閉塞に使われた石

弥生時代前期の杭列・水路跡を発見

④ 古屋敷遺跡 (大田市仁摩町)

静間仁摩道路の建設に伴い6月から発掘調査を実施しています。この遺跡は平成25年度から継続して発掘調査を行っており、今年度が3年目になります。今回の調査では、弥生時代前期の水路が確認されました。この水路は、これまでの調査でも確認されており、全長は約110mにも及びます。

隣接する調査区では平成25年度に弥生時代と考えられる水田跡が発見されており、この水路も、水田に伴う用水路だった可能性があります。水路の肩には杭列が打ち込まれ、崩れないような工夫が施されていました。



平成25年度に確認された水田跡



弥生時代前期の用水路（写真中央）



水路の護岸の杭列

遺跡の周囲に集落が？ ⑤ 海石西遺跡 (浜田市三隅町)

浜田市三隅町三隅にある海石西遺跡は、一般国道9号（三隅益田道路）建設に伴い6月に発掘調査を行いました。今回の調査では弥生時代前期から室町時代頃の土器や石器、古銭が発見されました。建物跡などの遺構は見つかりませんでしたが、古墳時代初めごろに形成された自然の流路から多量の遺物出土しており、付近にかなりの規模の集落があったことがうかがえます。この他には平安時代に現在の山口県内で焼かれた緑釉陶器が出土しています。緑釉陶器は古代の役所など公的な機関や寺院などで出土することが多く、古代の海石西遺跡の周辺にはこうした施設があった可能性が高いと考えられます。

MAP



調査区近景



調査風景



古墳時代の遠田川の護岸を確認 ⑥ 神出西遺跡 (益田市遠田町)

一般国道9号（三隅益田道路）建設に伴い7月から9月にかけて発掘調査を行いました。遺跡は現在の9号線と並行して北流する遠田川の右岸の平野部に位置しています。調査区内からは、弥生時代中期頃の遠田川河道や古墳時代中期頃の溝跡を確認しました。古墳時代の溝跡からは木製の横槌や鋤なども出土しています。遠田川の川岸には古墳時代の建築部材や板材が集中して出土する地点があり、護岸のために部材を再利用していたものと考えられます。今回の調査によって、人々が古くから遠田川流域に進出し、川と共に生活していたことが明らかとなりました。

MAP



調査風景



検出された古墳時代の遠田川